

週間市場レポート

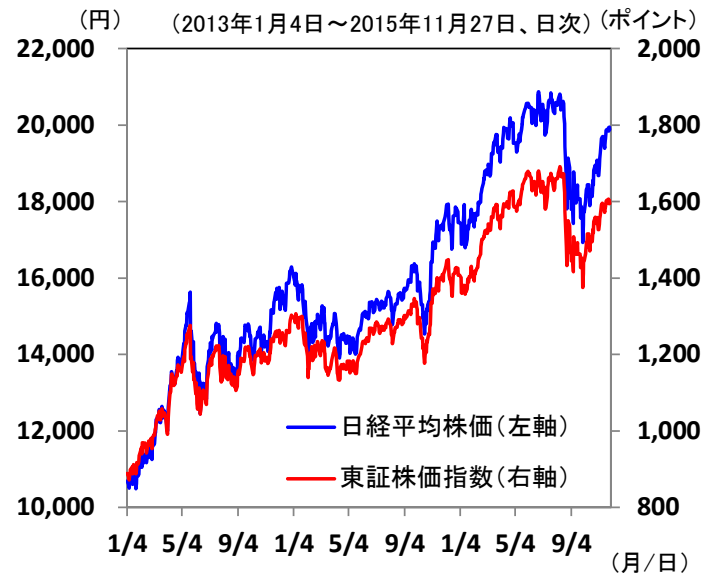
(2015年11月23日～27日)

(1) 日本の株式・債券市場

株式市場の動き

■先週の日本株式市場(日経平均株価)は、新たな材料に乏しく様子見のなか、狭い値幅での動きとなりました。ロシア軍用機撃墜によるロシア・トルコ間の緊張の高まりを受けて売られる場面もありましたが、景気対策への期待から下値では個人投資家からとみられる買いもあって底堅く推移しました。週末にかけては、米市場の休場や次週以降の海外での重要イベントを控えて見送りムードが強まり、横ばいでの推移で週の取引を終えました。(週末引け値:19,883.94円)

■週間では、日経平均株価は0.02%の上昇、東証株価指数は0.54%の下落でした。



出所:ブルームバーグのデータをもとに
ニッセイアセットマネジメントが作成

債券市場の動き

■先週の日本債券市場(10年国債金利)は、週初24日(火)は、日銀が2年債の買入れを減額したこと等を受けて売りが先行し、0.32%付近まで上昇しました。週末にかけては、20年債入札が順調であったことやロシア・トルコ間の緊張の高まり、欧米債券市場が堅調であったことなどから買われました。金利は、0.300%付近まで低下した後は横ばいの推移となりました。なお、27日(金)の新発2年債入札で、海外勢からとみられる旺盛な買いを受けて、初めて最高・平均落札利回りがともにマイナスとなりました。(週末引け値:0.308%)

■週間では、10年国債金利は0.016%の低下でした。



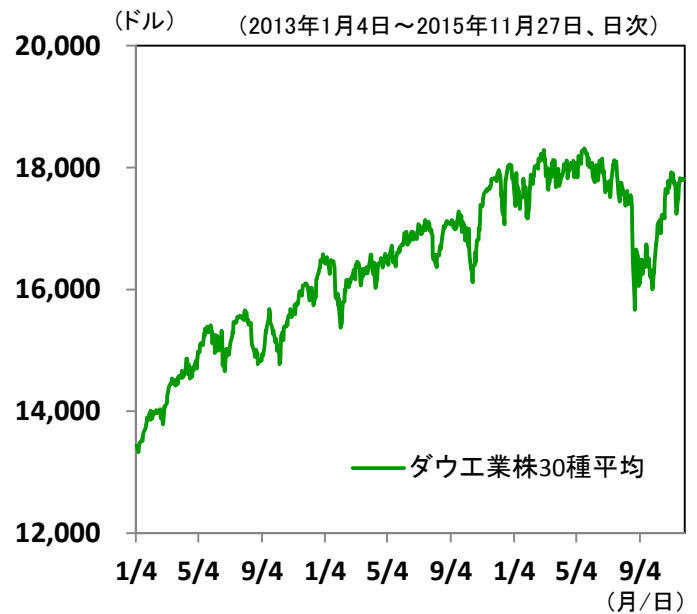
出所:ブルームバーグのデータをもとに
ニッセイアセットマネジメントが作成

(2) 米国の株式市場

市場の動き

■先週の米国株式市場(NYダウ)は、短期的な上昇への警戒感や材料不足などから動きの鈍い展開となりました。週半ばにかけては、トルコ軍によるロシア軍用機撃墜を受けて原油価格が上昇したことで資源関連株中心に買いがやや優勢となりました。欧州中央銀行(ECB)の追加緩和策期待で欧州株高となったことも買い安心感を誘いました。週末にかけては、内外での重要イベントを控えていることや祝日を挟むことから見送りムードが強く、ほぼ横ばいで推移しました。(週末引け値:17,798.49ドル)

■週間ではNYダウは0.14%の下落となりました。



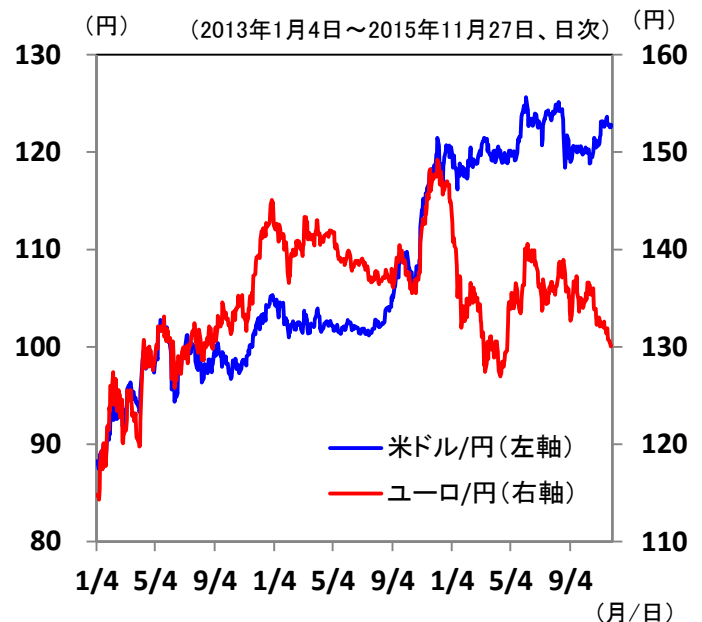
出所:ブルームバーグのデータをもとに
ニッセイアセットマネジメントが作成

(3) 外国為替市場

市場の動き

■先週の米ドル/円相場は、米利上げを意識したドル買い円売り基調が強い中、週前半にはトルコとロシア間の緊張感の高まりによるリスク回避の動きから円買いがやや優勢となりました。その後は、材料が少なく売り買いが交錯し122円台後半の狭い値幅でもみ合う動きとなりました。(週末引け値:122円80銭～90銭)

■週間では米ドル/円はほぼ横ばい、ユーロ/円は0.52%の円高となりました。



出所:ブルームバーグのデータをもとに
ニッセイアセットマネジメントが作成